

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510348

研究課題名(和文)中国朝鮮族の跨境生活 生活史の聞き取り調査の手法から

研究課題名(英文)Transmigratory Movement and Life-world of the Korean-Chinese: based on Life Histories of Chaoxianzu / Chosunjok

研究代表者

宮島 美花 (MIYAJIMA, MIKA)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：10452666

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文): 本研究は、社会調査における質的調査(聞き取り調査)の技法を用いた、中国朝鮮族の跨境生活に関する研究である。国境を含む行政区界の境界を跨いだ生活(跨境生活)には、行政区界ごとに社会保障システムが成り立っていることに起因する不便や不利益が伴う。彼らの跨境生活のありよう、特に彼らが日常的に直面する困難やその解決方法を明らかにすることを通じて、国家や地方自治体のような行政区界内のガバナンスと、そのような行政区界の境界に収まりきれない跨境生活空間におけるガバナンスとのズレを問い、民族ネットワークがその調整のために果たす役割を明らかにする。

研究成果の概要(英文): This study focuses on ethnic Koreans in China, namely the Korean-Chinese. Since the 1990s, the Korean-Chinese have actively migrated into large internal metropolitan areas, as well as into other countries throughout northeast Asia. It has become increasingly common where a family member's place of residence and the location of employment, schools, and medical facilities are widely separated, thus crossing the territories of local governments and international borders. Because of advances in traffic infrastructure, it has become much easier for family members to frequently travel between these locations to maintain family ties. However, because social welfare systems are divided by government-defined territories, certain inconveniences and disadvantages have affected these devoted family members. Therefore, through interviews with them, this study clarifies how they address such restrictions and inconveniences produced by the social welfare services of local and national governments.

研究分野：地域研究

キーワード：地域研究 アジア研究 中国朝鮮族 トランスナショナル 国際関係論 社会保障 北東アジア 生活史

1. 研究開始当初の背景

中国の一少数民族として、主に中国の東北地方に居住してきた中国朝鮮族は、1992年の中韓国交樹立以降、激しい国際移動を経験している。渡航先は世界各国に及ぶが、主として韓国、次いで日本・極東ロシアが多い。

筆者は、1996年から、彼らの民族自治区である吉林省延辺朝鮮族自治州でのフィールドワークに着手し、彼らを北東アジア地域でトランスナショナルに活動するトランスナショナル・アクターととらえ、ボトム・アップからの地域化 (Regionalization) を下支えする存在として注目してきた (宮島、1998年)。地域化とは「域内での社会的統合の進展であり、しばしば政策的意図がなくとも進行する社会的、経済的相互作用の過程」 (Hurrell, 1995) であり、地域 (region) は、ASEANのような国家間制度と地域化によって形成されるとの議論がある (Pempel, 2005)。

筆者は、中朝国境地帯に歴史的伝統的に存在する「自然経済圏 (Natural Economic Territory)」 (鶴島、2000年) は、そこに住む中国朝鮮族にとっては日常的に往来する「跨境生活圏」 (左図の青円) でもあったこと、このような歴史を背景に、今日の中国朝鮮族には、家族の構成員が分散する範囲の広まりと頻繁な相互往来が顕著であることを指摘した。

また、日本在住の中国朝鮮族を対象にアンケート調査を行い、日本への移動や移動後の暮らしに親戚 (血縁)・中国での民族学校の同窓生 (学縁) などの民族ネットワークが利用されていることを明らかにした (権・宮島ほか、2006年)。

筆者は、中国朝鮮族の「拡大する跨境生活圏」の生活実態を解明する必要に鑑み、初期的調査に着手した。具体的には、2011年9月、延辺において、この約10年間ほど頻繁に日中間を往来し、同居と別居を繰り返しながら、2人の子どもを産み育ててきたAさんに聞き取り調査を行ったところ、日本での子の養育を断念せざるを得ず、中国在住の祖父母に養育を依頼した事情や、子に単身で日中間を往復させる「フライング・チルドレン (flying children)」の経験等が明らかとなった。筆者は、2011年10月2日、北東アジア学会 (於：北海商科大学) において、高橋和 (山形大学教授) 「ヒトの移動と国境管理 シェンゲン条約をめぐって」、佐渡友哲 (日本大学教授) 「GMSにおけるサブリージョナリズム」の報告群とともに、「地域主義再考」を主題に企画分科会を構成し、この初期的調査の結果を報告した。高橋報告では、欧州の事例から国家の領域性を人の移動が凌駕している様子と、人の動きが新たな「地域」を形成していく展望とが報告され、筆者の報告をその展望上におけるアジア発の事例研究と位置づけた。佐渡友報告では、東南アジ

アの研究者によるGMS (Greater Mekong Sub-region: 大メコン地域圏) の研究の中心は、メコン川を共有する国々の国境を跨って分布する諸民族の行動を研究する手法が主流であるのに対し、北東アジア研究においては域内の局地経済圏に注目する経済学的手法が多く、経済一辺倒ではない地域研究として、筆者の報告の意義が高く評価できると注目された。

【参考文献】

- L. Fawcett and A. Hurrell ed., 1995, *Regionalism in World Politics*, Oxford UP.
- T.J. Pempel ed., 2005, *Remapping East Asia - The Constructing of a Region*, Cornell UP.
- 鶴島雪嶺、2000年、『豆満江地域開発』関西大学出版部。
- 宮島美花、1998年、「東アジアのエスニック・トランスナショナル・アクター 華人と朝鮮民族のトランスナショナルな活動に注目して」『国際政治』119号。
- 権香淑・宮島美花ほか、2006年、「在日本中国朝鮮族実態調査に関する報告」中国朝鮮族研究会編『朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』アジア経済文化研究所、179-222頁。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の2点である。まず第1に、調査法を精査したのち、複数の事例に対して、本格的な事例調査を行い、その跨境生活の実態を明らかにする。調査では、家族の生活史を聞き取るなかで、特に跨境生活のなかで直面する日常的な困難、その解決方法・工夫を聞き取る。第2に、調査結果から、既存の社会保障のシステムのありよう (彼らが必要としながらも享受しえない現行の社会的サービスなど) と、何がそこで発生する彼らの不便・不利益を補う役割を果たしているのかを明らかにする。この作業を通じて、国家や地方自治体のような行政区界のガバナンスと、そのような行政区界の境界に収まりきらない跨境生活空間におけるガバナンスとのズレを問い、民族ネットワークがその調整のために果たす役割を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、研究目的を達成するために、文献調査および聞き取り調査を行った。

文献調査による研究としては、(1-1) 地域主義に関する理論研究、(1-2) 中国朝鮮族の移動と朝鮮族社会の変化に関する研究、を行った。

質的調査としての聞き取り調査を行うために (2) 社会調査法を基にした調査法の検討を行った。(2)は、(3) 中国朝鮮族への聞き取り調査を行う上で必要となる。不法な移動・滞在を含む調査母体 (中国外に居住する

中国朝鮮族ないしは跨境生活を送る中国朝鮮族)の規模そのものが不明であることを勘案すると、本研究において、その調査手法として、量的調査を主とすることには限界がある。そのため統計データや先行の量的研究を参考にしながら、本研究では特に質的調査(聞き取り調査)を重視した。

本研究では、中国朝鮮族の跨境生活の実態を解明するために、まず、朝鮮族が自らの跨境生活を主観的にどのように了解しているかを明らかにした。このような主観的世界の了解を探求しようとする際に用いられる調査研究手法のひとつが生活史研究であり、この手法を採用した。調査に協力してくれる朝鮮族個人について、その「主観的世界」「主観的に捉えられた日常的な現実」を明らかにすることを目的として、人生体験の聞き取りを行い、語られた人生体験を諸資料・先行研究と対照させ、歴史的・社会的文脈に位置づけ、語り手の生活史として再構成する。

成功している生活史研究の先行研究を精査し、本研究へ生活史研究の手法を援用することに参考するとともに、外部からの学問的批判に耐え得る方法(聞き取り対象者を選んだ理由付けなど)や、質的調査を採用する研究に対する批判的議論(社会調査協会編『社会と調査』第3号「特集 質的調査研究の“質”を問い直す」2009年)について検討し、質問項目の立案などの調査準備を行った。

上記(2)を踏まえて(3)中国朝鮮族を対象に聞き取り調査を行った。(1)および(3)で得られた知見をもって、(4)北東アジアにおける中国朝鮮族の跨境生活の事例から、行政区界内のガバナンスと跨境生活空間におけるガバナンスの考察へとアプローチした。

4. 研究成果

本研究の成果として、まず第1に、朝鮮族跨境生活の実態の一側面が明らかとなった。第2に、調査結果から、既存の社会保障のシステムのありよう(彼らが必要としながらも享受しえない現行の社会的サービスなど)と、何がそこで発生する彼らの不便・不利益を補う役割を果たしているのかが明らかとなった。

本研究の特色は、国家や地方自治体といったトップ・ダウンの視点からのみガバナンスを考えるのではなく、人々の生活というボトム・アップの視点からもガバナンスを考えようとする点にある。本研究は、単なる海外在住者ではなく、跨境生活を生きるがゆえに、国家や地方自治体のような行政区界内のガバナンスに収まりきれない人々に注目する。本研究の成果は、地域は、政府間制度などの「上からの地域主義」とNGOや企業活動が進める「下からの地域化」によって形成されるという議論(Pempel, 2005)に対し、双方の領域のズレを検討に加える必要があることを示唆する波及効果をもつと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. 宮島美花「移動を説明する諸理論と、中国朝鮮族の移動・生活 日本在住の朝鮮族の事例から」『香川大学経済論叢』第87巻第3・4号, 185 - 216 頁, 2015年3月。(査読無)
2. 宮島美花「中国朝鮮族の移動と中国の社会保障 戸籍制度と「単位」制度から」, 『北東アジア地域研究』第20号, 65 - 86 頁, 北東アジア学会, 2014年6月。(査読有)
3. 宮島美花「中国朝鮮族の移動と韓国の社会保障」『香川大学経済学部 研究年報』53号, 73-100 頁, 2014年3月。(査読無)
4. MIKA MIYAJIMA, Transmigratory Movement and Life-world of the Korean-Chinese in Northeast Asia: based on Life Histories of Chaoxianzu / Chosunjok Women, Frontier of North East Asian Studies, The Association for Northeast Asia Regional Studies, Vol.12, pp.69-99, 2013.10. (査読有)

[学会発表](計1件)

1. 宮島美花「中国朝鮮族の移動と移民の社会保障」北東アジア学会全国大会, 日本大学三島キャンパス(静岡県・三島市), 2014年9月.

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮島 美花 (MIYAJIMA, MIKA)

香川大学経済学部准教授

研究者番号：10452666

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：